

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3130808号
(U3130808)

(45) 発行日 平成19年4月12日(2007. 4. 12)

(24) 登録日 平成19年3月22日(2007. 3. 22)

(51) Int.Cl.

A 4 3 B 3/00 (2006.01)

F I

A 4 3 B 3/00 1 O 2 J

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2007-394 (U2007-394)
(22) 出願日 平成19年1月29日(2007. 1. 29)(73) 実用新案権者 507030818
五十嵐 也人
東京都東久留米市中央町1丁目1番48号
久留米ハイライズ701号
(74) 代理人 100111202
弁理士 北村 周彦
(72) 考案者 五十嵐 也人
東京都東久留米市中央町1丁目1番48号
久留米ハイライズ701号

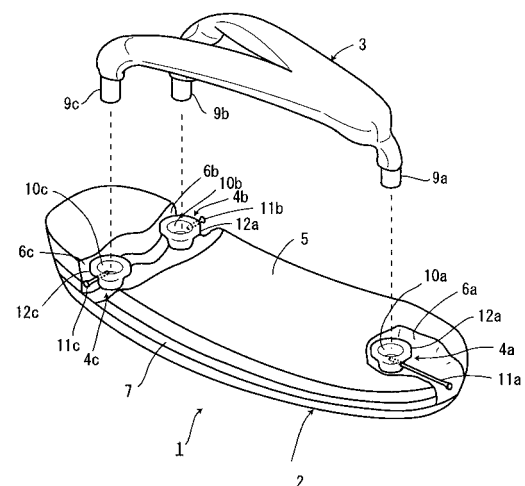
(54) 【考案の名称】 履物

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 鼻緒の着脱作業を行う者の手が汚れず、着脱手段の耐久性を高め、着脱作業を容易且つ円滑に行う。

【解決手段】 足を載置するための基台2と、基台上に前記足を固定するための鼻緒3と、鼻緒を基台2に対して着脱可能な着脱手段4a、4b、4cとを備えた履物1であって、着脱手段は、上方から鼻緒の端部9a、9b、9cを挿入可能な収容凹部10a、10b、10cと、収容凹部の内部において鼻緒の端部を固定可能な固定具11a、11b、11cとを備えていることを特徴とする。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

足を載置するための基台と、該基台上に前記足を固定するための鼻緒と、該鼻緒を前記基台に対して着脱可能な着脱手段とを備えた履物であって、

前記着脱手段は、上方から前記鼻緒の端部を挿入可能な収容凹部と、該収容凹部の内部において前記鼻緒の端部を固定可能な固定具とを備えていることを特徴とする履物。

【請求項 2】

前記着脱手段の固定具は、前記収容凹部に対して略水平方向に進退し、前記鼻緒の端部を押圧可能なように設けられている請求項 1 に記載の履物。

【請求項 3】

前記着脱手段の固定具は、前記収容凹部から前記基台の側面に至る通孔内に設けられ、前記基台の側方から操作可能となっている請求項 2 に記載の履物。

【請求項 4】

前記着脱手段の固定具は、前記収容凹部への進入方向に付勢されていると共に、前記鼻緒の端部の前記収容凹部への挿入に伴って前記収容凹部から退出方向に移動するように構成されている請求項 2 に記載の履物。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、鼻緒を備えた履物に関し、特に、鼻緒が着脱可能に設けられた履物に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、草履や下駄、雪駄等の履物には、基台に鼻緒が取り付けられており、この鼻緒により基台上に使用者の足を固定するようになっている。この鼻緒は、磨耗や損傷等により交換の必要が生じたり、或いは、使用者の足に合わせて長さを調整する必要が生じたりした時に基台に対して着脱されるが、この鼻緒の着脱作業は、専門的な技術を必要とするため、熟練者の手に委ねるのが通常であり、専門的な技術を有しない使用者自らが鼻緒の着脱作業を行うことはほとんど不可能であった。

【0003】

そこで、履物の使用者自身がこの鼻緒の着脱作業を容易に実施できるようにするため、基台の裏側に鼻緒の端部を固定する固定金具を配設することにより基台に対して鼻緒を着脱可能な構成とした履物が提案されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 0 9 2 6 8 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、上記した特許文献 1 に開示された履物において鼻緒の着脱作業を行う場合には、基台の裏側に配設された固定金具を操作する必要があるため、作業者の手が汚れるといった問題があった。

【0005】

また、履物を使用する際、基台の裏面は常に地面に接触し、固定金具や該固定金具を覆う舌片等が磨耗或いは損傷し易くなるため、鼻緒の着脱作業時に固定金具が本来の機能を発揮しなくなり、着脱作業を円滑に行うことができなくなるおそれもあった。

【0006】

本考案は、上記した課題を解決すべくなされたものであり、鼻緒の着脱作業を行う者の手が汚れず、着脱手段の耐久性を高め、着脱作業を容易且つ円滑に行うことのできる履物を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

10

20

30

40

50

上記した目的を達成するため、本考案は、足を載置するための基台と、該基台上に前記足を固定するための鼻緒と、該鼻緒を前記基台に対して着脱可能な着脱手段とを備えた履物であって、前記着脱手段は、上方から前記鼻緒の端部を挿入可能な収容凹部と、該収容凹部の内部において前記鼻緒の端部を固定可能な固定具とを備えていることを特徴とする。

【0008】

そして、前記着脱手段の固定具は、前記収容凹部に対して略水平方向に進退し、前記鼻緒の端部を押圧可能なように設けられていてもよい。

【0009】

また、前記着脱手段の固定具は、前記収容凹部から前記基台の側面に至る通孔内に設けられ、前記基台の側方から操作可能となっていてよい。

【0010】

さらに、前記着脱手段の固定具は、前記収容凹部への進入方向に付勢されていると共に、前記鼻緒の端部の前記収容凹部への挿入に伴って前記収容凹部から退出方向に移動するように構成されていてもよい。

【考案の効果】

【0011】

本考案では、上方から鼻緒の端部を挿入可能な収容凹部の内部において固定具によって鼻緒の着脱を行うようになっているため、鼻緒の着脱作業時に、履物の裏面側に作業者の手が触れて汚れることがなく、着脱作業を容易且つ円滑に行うことができる。

【0012】

また、履物を使用する際、着脱手段が地面に接触することにより磨耗或いは損傷するおそれがないため、着脱手段の耐久性を高めることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0013】

以下、図面を参照しつつ、本考案の実施の形態について説明する。なお、以下の説明では、本発明を和装用の草履に適用した場合について例示して説明する。

【0014】

先ず、図1～図3を参照しつつ、本考案の第1の実施の形態に係る履物について説明する。ここで、図1は本考案の第1の実施の形態に係る履物を示す斜視図、図2は同履物を裏面側から示す斜視図、図3は同履物を示す分解斜視図である。

【0015】

本実施の形態に係る履物1は、使用者の足を載置するための基台2と、基台2上に足を固定するための鼻緒3と、鼻緒3を基台2に対して着脱可能な着脱手段としての固定金具4a、4b、4cとを備えて構成されている。

【0016】

基台2は、木材や厚紙等から成る芯材の周囲を布や皮又は樹脂材料によって覆うことにより形成されており、基台2の上面5には、前部と左右後部の3箇所に鼻緒挿入用の孔（図示省略）が穿設されている。また、該各孔の下方の基台2の内部には、それぞれ、固定金具嵌合部6a、6b、6cが形成されており、基台2の内部には、この固定金具嵌合部6a、6b、6cから基台2の側面7に至るように細長円筒形状の通孔（図示省略）が形成され、この通孔の外側はキャップ8により閉塞されている。なお、このキャップ8は後述する固定具11a、11b、11cの頭部に一体化されていてもよい。

【0017】

鼻緒3は、V字状を成し、芯材を布や皮又は樹脂材料によって覆うことにより形成されており、前部と左右後部の端部9a、9b、9cはそれぞれ下方に延出するように形成されている。なお、鼻緒3は、既存のものの長さを調整する場合等、既存のものを利用することもできる。

【0018】

固定金具4a、4b、4cは、それぞれ固定金具嵌合部6a、6b、6cに嵌合するこ

とにより基台 2 に固定され、履物 1 の底板と相俟って内部に収容凹部 10 a, 10 b, 10 c を形成する円筒形状のケース部 12 a, 12 b, 12 c と、収容凹部 10 a, 10 b, 10 c の内部において鼻緒 3 の端部 9 a, 9 b, 9 c を固定可能な固定具 11 a, 11 b, 11 c とを備えており、収容凹部 10 a, 10 b, 10 c には上方から鼻緒 3 の端部 9 a, 9 b, 9 c が挿入可能となっている。

【0019】

ケース部 12 a, 12 b, 12 c の側壁部には、螺子から成る固定具 11 a, 11 b, 11 c が螺合可能となっており、この固定具 11 a, 11 b, 11 c は、前記通孔に遊貫し、収容凹部 10 a, 10 b, 10 c に対して略水平方向に進退可能となっている。

【0020】

このような構成を備えた履物 1 において、鼻緒 3 を基台 2 に取り付ける場合、先ず、鼻緒 3 の端部 9 a, 9 b, 9 c をそれぞれ上方から収容凹部 10 a, 10 b, 10 c に挿入し、収容させる。その後、前記通孔のキャップ 8 を取り外し、ドライバを使用して固定具 11 a, 11 b, 11 c を正回転させ、収容凹部 10 a, 10 b, 10 c への進入方向に移動させる。これにより、鼻緒 3 の端部 9 a, 9 b, 9 c は、固定具 11 a, 11 b, 11 c の先端に押圧され、該固定具 11 a, 11 b, 11 c とケース部 12 a, 12 b, 12 c の内面との間にそれぞれ挟持された状態となり、収容凹部 10 a, 10 b, 10 c 内に固定される。

【0021】

一方、鼻緒 3 を基台 2 から取り外すには、上記した手順と逆の手順で、固定具 11 a, 11 b, 11 c を逆回転させて収容凹部 10 a, 10 b, 10 c から退出する方向に移動させ、固定具 11 a, 11 b, 11 c の先端とケース部 12 a, 12 b, 12 c の内面とによる鼻緒 3 の端部 9 a, 9 b, 9 c の挟持状態を解除した上で、鼻緒 3 を上方に引き抜くことにより行う。

【0022】

次に、図 4～図 6 を参照しつつ、本考案の第 2 の実施の形態に係る履物について説明する。ここで、図 4 は本考案の第 2 の実施の形態に係る履物を示す斜視図、図 5 は同履物を示す分解斜視図、図 6 は同履物の固定手段を示す断面図である。

【0023】

本実施の形態に係る履物 21 は、使用者の足を載置するための基台 22 と、基台 22 上に足を固定するための鼻緒 23 と、鼻緒 23 を基台 22 に対して着脱可能な着脱手段としての固定金具 24 a, 24 b, 24 c とを備えて構成されている。

【0024】

基台 22 は、木材や厚紙等から成る芯材の周囲を布や皮又は樹脂材料によって覆うことにより形成されており、基台 22 の上面 25 には、前部と左右後部の 3 箇所に鼻緒挿入用の孔（図示省略）が穿設されている。また、該各孔の下方の基台 22 の内部には、それぞれ、基台 22 の側面 27 に至るように固定金具嵌合部 26 a, 26 b, 26 c が形成されており、この固定金具嵌合部 26 a, 26 b, 26 c の外側はキャップ 28 により閉塞されている。なお、このキャップ 28 は後述する固定金具 24 a, 24 b, 24 c の外側面に兼用させてもよい。

【0025】

鼻緒 23 は、V 字状を成し、芯材を布や皮又は樹脂材料によって覆うことにより形成されており、前部と左右後部の端部 29 a, 29 b, 29 c はそれぞれ下方に延出するように形成されている。

【0026】

固定金具 24 a, 24 b, 24 c は、それぞれ固定金具嵌合部 26 a, 26 b, 26 c に嵌合することにより基台 22 に固定され、内部に収容凹部 30 a, 30 b, 30 c が形成された上面に開口部を有する箱状のケース部 31 a, 31 b, 31 c と、ケース部 31 a, 31 b, 31 c の内部に収容されて鼻緒 3 の端部 29 a, 29 b, 29 c を固定可能な固定具 32 a, 32 b, 32 c とを備えており、収容凹部 30 a, 30 b, 30 c には

10

20

30

40

50

上方から鼻緒 3 の端部 29 a, 29 b, 29 c が挿入可能となっている。なお、固定金具 24 a, 24 b, 24 c は下面が開放されていてもよく、その場合、収容凹部 30 a, 30 b, 30 c は履物 1 の底板と相俟って形成される。

【0027】

固定具 32 a (32 b, 32 c も同様) は、円柱状の軸部 33 a と、軸部 33 a とケース部 31 a の一方の内端面 34 a との間に介装されて軸部 33 a を収容凹部 30 a への進入方向に付勢するバネ部 35 a とから構成されており、軸部 33 a は収容凹部 30 a に対して略水平方向に進退可能となっている。また、の先端面 36 a 及び該先端面 36 a に向するケース部 31 a の他方の内端面 37 a には、複数の三角刃形状の掛止部 38 a がそれぞれ突設されており、この掛止部 38 a は、鼻緒 3 の端部 29 a, 29 b, 29 c を誘い込み易いように、下方に湾曲して形成されている。さらにまた、軸部 33 a の頂部には摘み部 39 a が突設され、摘み部 39 a は基台 2 の上面 5 の使用者の足に当たらない位置に突出するようになっている。なお、この摘み部 39 a の代わりに、軸部 33 a から基台 2 の側面 7 に至るように水平に操作軸 (図示省略) を設け、該操作軸を押圧することにより、軸部 33 a が収容凹部 30 a, 30 b, 30 c から退出する方向に移動するように構成してもよい。

【0028】

このような構成を備えた履物 21 において、鼻緒 23 を基台 22 に取り付ける場合、鼻緒 23 の端部 29 a, 29 b, 29 c をそれぞれ上方から収容凹部 30 a, 30 b, 30 c に挿入すると、この鼻緒 23 の端部 29 a, 29 b, 29 c の挿入動作に伴い、軸部 33 a, 33 b, 33 c は、掛止部 38 a, 38 b, 38 c が下方に湾曲した形状を成しているため、バネ 35 a の付勢力に抗して、収容凹部 30 a, 30 b, 30 c から退出する方向に移動する。そして、鼻緒 23 の端部 29 a, 29 b, 29 c は、固定具 32 a, 32 b, 32 c の先端の掛止部 38 a, 38 b, 38 c に押圧され、該掛止部 38 a, 38 b, 38 c が掛止することにより、それぞれ収容凹部 30 a, 30 b, 30 c に収容、固定される。

【0029】

一方、鼻緒 23 を基台 22 から取り外すには、摘み部 39 a, 39 b, 39 c を、バネ 35 a の付勢力に抗して、収容凹部 30 a, 30 b, 30 c から退出する方向に移動させ、鼻緒 23 の端部 29 a, 29 b, 29 c と掛止部 38 a, 38 b, 38 c との掛止状態を解除させ、鼻緒 23 を上方に引き抜くことにより行う。

【0030】

なお、上記した第 1 及び第 2 の実施の形態において、着脱手段として、固定金具 4 a, 4 b, 4 c、24 a, 24 b, 24 c について説明したが、これは単なる例示に過ぎず、着脱手段は、着脱作業時に履物の側方又は上方から操作可能であれば、他の構造や形状を成していてもよい。

【0031】

また、本発明は、上記した和装用の草履に限らず、他の草履や下駄、雪駄等の履物全般に適用可能であることは言う迄もない。

【図面の簡単な説明】

【0032】

【図 1】本考案の第 1 の実施の形態に係る履物を示す斜視図である。

【図 2】本考案の第 1 の実施の形態に係る履物を裏面側から示す斜視図である。

【図 3】本考案の第 1 の実施の形態に係る履物を示す分解斜視図である。

【図 4】本考案の第 2 の実施の形態に係る履物を示す斜視図である。

【図 5】本考案の第 2 の実施の形態に係る履物を示す分解斜視図である。

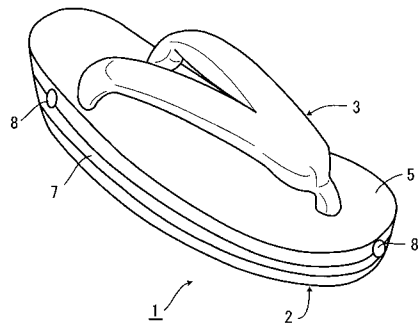
【図 6】本考案の第 2 の実施の形態に係る履物の固定手段を示す断面図である。

【符号の説明】

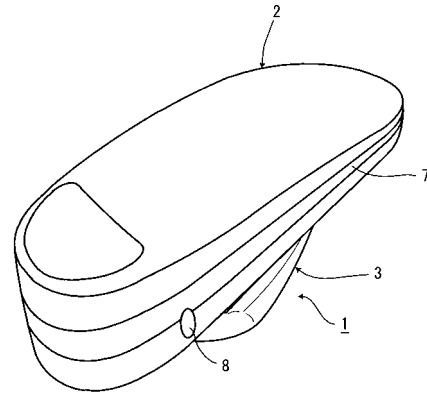
【0033】

2	基台	
3	鼻緒	
4 a	固定金具（着脱手段）	
4 b	固定金具（着脱手段）	
4 c	固定金具（着脱手段）	
9 a	端部	
9 b	端部	
9 c	端部	
1 0 a	収容凹部	
1 0 b	収容凹部	10
1 0 c	収容凹部	
1 1 a	固定具	
1 1 b	固定具	
1 1 c	固定具	
2 1	履物	
2 2	基台	
2 3	鼻緒	
2 4 a	固定金具（着脱手段）	
2 4 b	固定金具（着脱手段）	
2 4 c	固定金具（着脱手段）	20
2 9 a	端部	
2 9 b	端部	
2 9 c	端部	
3 0 a	収容凹部	
3 0 b	収容凹部	
3 0 c	収容凹部	
3 2 a	固定具	
3 2 b	固定具	
3 2 c	固定具	

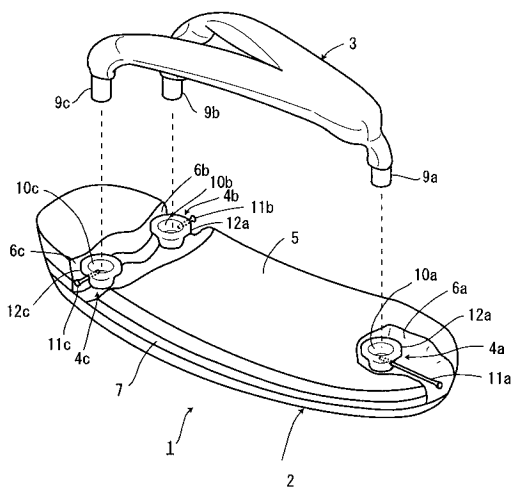
【図 1】



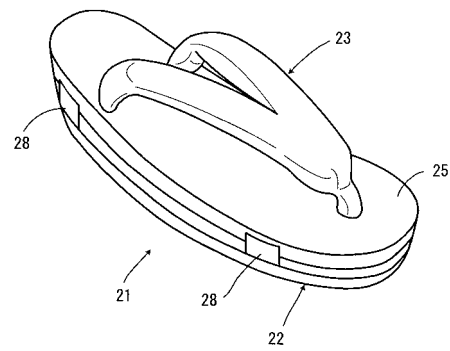
【図 2】



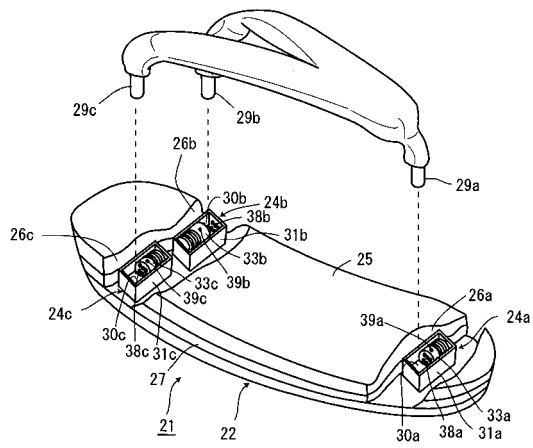
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

